

龍谷大学 履修要項
2025年度 農学部

🏠 > 教育課程<年度別> > 2025年度入学生 農学部 > 2025年度 農学部

🕒 最終更新日：2025年3月10日

2025年度入学生

農学部

2025年度入学生 農学部 メニュー

「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」>

- 農学部の教育理念・目的 >
- 農学部の卒業認定・学位授与の方針 [学士（農学）] >
- 農学部の教育課程編成・実施の方針 >

農学部専攻科目の教育目的および履修方法 >

- 【1】必修科目 >
＜学部専攻科目における必修科目＞ >
- 【2】履修必修科目 >
＜履修必修科目（履修指導科目）＞ >
- 【3】農学部専攻科目の履修方法 >
- 【4】農学部専攻科目における「先修制」 >
＜学部専攻科目＞ >
- 【5】進級制度（農学部農学科のみ） >
(1) 進級要件 > (2) 進級に係る年次の取り扱い >
- 【6】「食の循環実習」 >
- 【7】「演習科目」（ゼミナール） >
(1) 「入門ゼミ」＜第1 Semester＞：全学科対象 > (2) 「基礎演習Ⅰ」＜第4 Semester＞：生命科学科、農学科対象 >
(3) 「基礎演習」＜第4 Semester＞：食料農業システム学科対象 > (4) 「基礎演習Ⅱ」＜第5 Semester＞：生命科学科、農学科対象 >
(5) 「総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」＜第6～8 Semester＞：生命科学科、農学科、食品栄養学科対象 >
(6) 「総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」＜第5～8 Semester＞：食料農業システム学科対象 >
- 【8】「特別研究」 >
- 【9】「農学部キャリア実習A・B」 >
- 【10】「海外農業体験実習A・B」 >
- 【11】「農学部特別実習A・B・C」、「農学部特別講義」 >
- 【12】基礎教育科目 >
＜基礎教育科目＞ >
- 【13】生命科学科の専攻科目 >

(1) 卒業要件単位数 (生命科学科) > (2) 専攻科目開設科目 (生命科学科) > (3) カリキュラムフローチャート (生命科学科) >

• 【14】 農学科の専攻科目 >

(1) 卒業要件単位数 (農学科) > (2) 専攻科目開設科目 (農学科) > (3) カリキュラムフローチャート (農学科) >

• 【15】 食品栄養学科の専攻科目 >

(1) 卒業要件単位数 (食品栄養学科) > (2) 専攻科目開設科目 (食品栄養学科) >

(3) カリキュラムフローチャート (食品栄養学科) > (4) 栄養士および管理栄養士養成課程－食品栄養学科のみ－>

(5) 食品衛生管理者および食品衛生監視員養成課程－食品栄養学科のみ－>

• 【16】 食料農業システム学科の専攻科目 >

(1) 卒業要件単位数 (食料農業システム学科) > (2) 専攻科目開設科目 (食料農業システム学科) >

(3) カリキュラムフローチャート (食料農業システム学科) > (4) 食料農業システム学科における学修プログラム >

• 【17】 科目ナンバリング >

「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」

農学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、人類が直面する「食」と「農」に関する国内外の諸問題に対して真摯に向き合い、農学の立場から正しい判断ができる力を備えた、持続可能な社会の実現に貢献しうる人の育成を目的とする。

農学部の卒業認定・学位授与の方針 [学士（農学）]

農学部の「教育理念・目的」に基づき、以下の基本的な資質・能力を備えるに至った学生に学士（農学）の学位を授与する。

<農学部の学生に保証する基本的な資質・能力>

○教養教育科目により保証する資質・能力

●専攻科目により保証する資質・能力

①：建学の精神の具現化	○建学の精神の意義について理解している。
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。 ●農学の理論とその実践について説明できる。 ●幅広い学問領域について基礎的な知識をもち、それぞれの領域がもつ見方について説明することができる。 ●自ら発見した課題を論理的に分析し、自らの考えを文章で表現し、それをプレゼンテーション・ディスカッションできる。 ●「食」と「農」に関する諸課題を解決できる適切な技能を身につけている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。 ●「食」と「農」に関する諸現象を論理的に分析できる。 ●基本的な論理的思考能力をもち、多角的な観点から柔軟かつ公正に思考し判断ができる。 ●問題を発見し、課題を解決する能力を身につけている。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	●地球環境と国内外の農業の動向に対して常に興味・関心を示している。 ●「食」と「農」をとりまく諸現象について、探究心をもって具体的な課題設定ができる。 ●問題を解決するために必要となる専門的知識を自ら進んで修得し、時代の変化や社会の要請に合致した学習を継続的に行うことができる。 ●高い倫理性をもって、専門知識と技術を総合的に活用することができる。 ●世界的な視野をもって社会が直面するさまざまな課題に主体的・積極的に対応することができる。 ●多様な価値観を認めつつ、学びを通じて自己の認識を広げ、感性を磨くことができる。 ●社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身に付けている。

<学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法>

1. 学部で4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。ただし、所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については、3年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては、別にこれを定める。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を修得する。
3. 卒業認定を受けるためには、「特別研究」を行い合格しなければならない。

農学部の教育課程編成・実施の方針

未来の持続可能な農業を構築するために、文理融合型の人材を育成する必要がある。そこで、農学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に基づいて、「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。

<農学部生命科学科の教育内容>

○教養教育科目にかかる教育内容

●専攻科目にかかる教育内容

<p>①：建学の精神の具現化</p>	<p>○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。</p> <p>●「仏教の思想」と農学研究を架橋するために初年次の必修科目として「食と農の倫理」（2単位）を設置する。</p>
<p>②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得</p>	<p>○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。</p> <p>○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系等）を開講する。</p> <p>●分野が広範にわたる農学を総合的に理解するため「農学概論」（2単位）を必修科目として設置する。</p> <p>●情報リテラシー等を学ぶ「入門ゼミ」（2単位）を全員履修科目として設置する。</p> <p>●「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。</p> <p>●学科横断型カリキュラムにより文理融合型の知識基盤を構築する。低年次において他学科で開講される科目の履修を要件化し、理系・文系の垣根を越えた教育体系とする。</p> <p>●農業の基礎となる農作物の生育や変異の仕組み、すなわち生物の生理現象や変異と進化、その生育における外的要因の影響を総合的に理解するために、分子生物学や遺伝学をはじめとする生命科学領域の基礎科目を学ぶ。</p>
<p>③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上</p>	<p>○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。</p> <p>○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系等）を開講する。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ●農業に関するトータルプロセスを実体験できるプログラム「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）を必修科目として設置する。この科目では、講義・演習と実験・実習の組み合わせにより「食」と「農」を総合的に理解させ、かつ学科横断型科目として実施する事で学科の枠組みを超えた多面的な学びを達成し、加えて学生交流を誘起する。 ●農業の基礎となる農作物の生育や変異の仕組み、すなわち生物の生理現象や変異と進化、その生育における外的要因の影響を総合的に理解するために、分子生物学や遺伝学をはじめとする、生命科学領域の応用科目を学ぶ。
<p>④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●英語で書かれた文献の講読を通して最新の海外の研究動向を把握する。 ●実験・実習を通じて実際の生物の生理や遺伝現象の観察を行う。さらに、講義と実験・実習で身につけた知識と技術を活用して、自ら学び研究する総合演習や特別研究を行う。 ●社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開設する。

<農学部農学科の教育内容>

○教養教育科目にかかる教育内容

●専攻科目にかかる教育内容

<p>①：建学の精神の具現化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。 ●「仏教の思想」と農学研究を架橋するために初年次の必修科目として「食と農の倫理」（2単位）を設置する。
<p>②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系等）を開講する。 ●分野が広範にわたる農学を総合的に理解するため「農学概論」（2単位）を必修科目として設置する。 ●情報リテラシー等を学ぶ「入門ゼミ」（2単位）を全員履修科目として設置する。 ●未来の持続可能な農業を構築するために、文理融合型の人材を育成する。農学部の「教育理念・目的」「学位授与の方針」に基づいて、「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。 ●学科横断型カリキュラムにより文理融合型の知識基盤を構築する。低年次において他学科で開講される科目の履修を要件化し、理系・文系の垣根を越えた教育体系とする。 ●「食の安全・安心」を支える農作物の生産、すなわち品種育成や作物多様性、土壌などの栽培環境の保全、農薬や肥料などが環境に与える影響などを実証的かつ総合的に理解するために、育種学や作物学をはじめとする、農業に直結する自然科学領域の基礎科目を学ぶ。

<p>③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当(第3・第4セメスター配当)の言語科目(英語および英語以外の複数の外国語科目)を開講する。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当(第3・第4セメスター配当)の教養科目(人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系等)を開講する。 ●農業に関するトータルプロセスを実体験できるプログラム「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」(各2単位)を必修科目として設置する。この科目では、講義・演習と実験・実習の組み合わせにより「食」と「農」を総合的に理解させ、かつ学科横断型科目として実施する事で学科の枠組みを超えた多面的な学びを達成し、加えて学生交流を誘起する。 ●「食の安全・安心」を支える農作物の生産、すなわち品種育成や作物多様性、土壌などの栽培環境の保全、農薬や肥料などが環境に与える影響などを実証的かつ総合的に理解するために、育種学や作物学をはじめとする、農業に直結する自然科学領域の応用科目を学ぶ。
<p>④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●英語で書かれた文献の講読を通して最新の海外の研究動向を把握する。 ●実験・実習を通じて実際の植物の育成や栽培を行う。さらに、講義と実験・実習で身につけた知識と技術を活用して、自ら学び研究する総合演習や特別研究を行う。 ●社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開設する。

<農学部食品栄養学科の教育内容>

○教養教育科目にかかる教育内容

●専攻科目にかかる教育内容

<p>①：建学の精神の具現化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当(第1・第2セメスター配当)の「仏教の思想」科目(「仏教の思想A」・「仏教の思想B」)を全学必修科目として開講する。 ●「仏教の思想」と農学研究を架橋するために初年次の必修科目として「食と農の倫理」(2単位)を設置する。
<p>②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当(第1・第2セメスター配当)の言語科目(英語および英語以外の複数の外国語科目)を開講する。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当(第1・第2セメスター配当)の教養科目(人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系等)を開講する。 ●分野が広範にわたる農学を総合的に理解するため「農学概論」(2単位)を必修科目として設置する。 ●情報リテラシー等を学ぶ「入門ゼミ」(2単位)を全員履修科目として設置する。 ●未来の持続可能な農業を構築するために、文理融合型の人材を育成する。農学部の「教育理念・目的」「学位授与の方針」に基づいて、「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。

	<ul style="list-style-type: none"> ●学科横断型カリキュラムにより文理融合型の知識基盤を構築する。低年次において他学科で開講される科目の履修を要件化し、理系・文系の垣根を越えた教育体系とする。 ●人の健康を支える上で必要不可欠な「食と栄養」について学ぶ。また、人々の健全な食生活をサポートする管理栄養士の養成課程でもあることから、基礎栄養学をはじめ、生理学、生化学、食品化学などの専門基礎科目を学ぶ。
<p>③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当(第3・第4セメスター配当)の言語科目(英語および英語以外の複数の外国語科目)を開講する。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当(第3・第4セメスター配当)の教養科目(人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系等)を開講する。 ●農業に関するトータルプロセスを実体験できるプログラム「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」(各2単位)を必修科目として設置する。この科目では、講義・演習と実験・実習の組み合わせにより「食」と「農」を総合的に理解させ、かつ学科横断型科目として実施する事で学科の枠組みを超えた多面的な学びを達成し、加えて学生交流を誘起する。 ●人々の健全な食生活をサポートする管理栄養士の養成課程でもあることから、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論などの実践的専門科目を学ぶ。 ●実験科目を通じて食と栄養の仕組みや食品加工の実際を観察・体験し、学内外での実習を通じて食に携わる人材としての資質を形成する。
<p>④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●英語で書かれた文献の講読を通して最新の海外の研究動向を把握する。 ●臨地校外実習を実施することで、管理栄養士が活躍する現場で、様々な他職種の人々との協同性を養う。 ●講義と実験・実習で身につけた知識と技術を活用して、自ら学び研究する総合演習や特別研究を行う。 ●社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」、「臨地実習」を開設する。

<農学部食料農業システム学科の教育内容>

○教養教育科目にかかる教育内容

●専攻科目にかかる教育内容

<p>①：建学の精神の具現化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当(第1・第2セメスター配当)の「仏教の思想」科目(「仏教の思想A」・「仏教の思想B」)を全学必修科目として開講する。 ●「仏教の思想」と農学研究を架橋するために初年次の必修科目として「食と農の倫理」(2単位)を設置する。
<p>②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当(第1・第2セメスター配当)の言語科目(英語および英語以外の複数の外国語科目)を開講する。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当(第1・第2セメスター配当)の教養科目(人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ

	<p>科学系等)を開講する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●分野が広範にわたる農学を総合的に理解するため「農学概論」(2単位)を必修科目として設置する。 ●情報リテラシー等を学ぶ「入門ゼミ」(2単位)を全員履修科目として設置する。 ●未来の持続可能な農業を構築するために、文理融合型の人材を育成する。農学部の「教育理念・目的」「学位授与の方針」に基づいて、「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。 ●学科横断型カリキュラムにより文理融合型の知識基盤を構築する。低年次において他学科で開講される科目の履修を要件化し、理系・文系の垣根を越えた教育体系とする。 ●「食」と「農」に関わる自然科学的な知識と「農」の実態に関する確かな認識を前提としつつ、「食」と「農」に関わる国内外の社会問題・経済問題に取り組む能力を養うことを目的としている。そのために、農業技術や食に関わる自然科学的な基礎知識を取得するための講義・実習を一定程度受講した上で、経済学、経営学、会計学、社会学といった社会科学関連の基礎科目を中心に学ぶ。
<p>③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当(第3・第4セメスター配当)の言語科目(英語および英語以外の複数の外国語科目)を開講する。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当(第3・第4セメスター配当)の教養科目(人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系等)を開講する。 ●農業に関するトータルプロセスを実体験できるプログラム「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」(各2単位)を必修科目として設置する。この科目では、講義・演習と実験・実習の組み合わせにより「食」と「農」を総合的に理解させ、かつ学科横断型科目として実施する事で学科の枠組みを超えた多面的な学びを達成し、加えて学生交流を誘起する。 ●「食」と「農」に関わる自然科学的な知識と「農」の実態に関する確かな認識を前提としつつ、「食」と「農」に関わる国内外の社会問題・経済問題に取り組む能力を養うことを目的としている。そのために、農業技術や食に関わる自然科学的な基礎知識をふまえて、社会科学関連の応用科目を中心に学ぶ。
<p>④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●英語で書かれた文献の講読を通して最新の海外の研究動向を把握する。 ●調査・実習等を通じて、農業や食産業の実態把握に努める。さらに、講義と実習で得た知識と知見を活用して、自ら学び研究する演習や特別研究を行う。 ●社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開設する。

<教育方法>

- 学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期(配当セメスター)を考慮しながら系統的に履修できるよう科目(講義・演習・講読・実技・実験・実習等)を開設する。
- 全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

<学修成果の評価>

- 学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちの一つまたは複数を合わせて評価を行う。
 - ① 筆答試験による評価
 - ② レポート試験による評価
 - ③ 実技試験による評価
 - ④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

- 卒業論文（特別研究）の評価は、論文及び発表評価によって行う。

農学部専攻科目の教育目的および履修方法

農学部では、確かな知識・スキルと高度な倫理観に基づき、「食」や「農」に関わる様々な問題の解決に取り組み、今後の農業の振興とそれを通じた社会全体の発展を牽引できる人材を養成することを目的としています。

こうした目的を達成するため、専攻科目の中に、次のような科目区分を設け、「基礎」から「応用」へと段階的・系統的に学修が進められるよう教育課程（カリキュラム）を編成しています。

科目群		概要
① 学部必修科目		農学部における「学びの核」の構築や「農学」の概要の理解、「学びへの態度」の形成、「感謝」や「喜び」といった「農」の持つ本質の体得などを目的とした、農学部全学生の必修科目を配置する。
② 学科基礎分野	②-1 学科基礎科目A	農学部がめざす「文理融合型教育」を体現する科目群であり、「学科の文理を問わず、農学部の学生であるならば理解しておくことが望ましい」科目を配置する。
	②-2 学科基礎科目B	各学科において高年次での学科応用分野を学ぶための基盤形成を目的とした科目群であり、「入門ゼミ」、「基礎演習」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を含めた基礎的科目を中心に配置する。
③ 学科応用分野	③-1 学科応用科目	低年次で身に付けた幅広い「食」や「農」に関する知識・技能をもとにして、専門的な知識・スキルを修得するための科目群であり、各学科の分野に則した専門科目を中心に配置する。
	③-2 総合演習・特別研究	各自が所属した研究室において実施されるゼミナール（総合演習Ⅰ～Ⅲ、総合演習Ⅰ～Ⅳ）及び4年間の学修の集大成である「特別研究」を配置する。

【1】 必修科目

農学部全学科で共通して開講する「学部必修科目」（「農学概論」、「食と農の倫理」、「食の循環実習Ⅰ」、「食の循環実習Ⅱ」）及び各学科が指定する「必修科目」は、指定されたセメスターで必ず履修してください。修得単位数が124単位以上を超えていても、必修科目が未修得の場合は、卒業の認定を受けることはできません。

なお、学部必修科目については、学科ごとにクラス指定を行う場合がありますので、各自が所属する学科の指定されたクラスを履修登録・受講してください。

<学部専攻科目における必修科目>

学科	学部必修科目	その他の必修科目	
生命科学科	農学概論 食と農の倫理 食の循環実習Ⅰ・Ⅱ	遺伝学Ⅰ、植物生理・生化学Ⅰ、 基礎生物学実習、基礎化学実習、 生命科学実習A・B	総合演習Ⅰ～Ⅲ 特別研究
農学科		植物育種学、作物学Ⅰ、基礎生物学実習、基礎化学実習、農場実習、農学専門実験	
食品栄養学科		健康管理概論、公衆衛生学Ⅰ、生化学、解剖生理学、運動生理学、食品化学、食品学、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論Ⅰ、臨床栄養学Ⅰ、公衆栄養学、給食経営管理論Ⅰ	

食料農業システム学科	ミクロ経済学、食料・農業経済学	総合演習Ⅰ～Ⅳ 特別研究
------------	-----------------	-----------------

【2】履修必修科目

履修必修科目とは、専攻科目を学修するうえで基本となる科目の中から、必ず履修するよう指導している科目です。卒業要件上の必修科目ではありませんが、以降の学修のために、指定された Semester で必ず履修登録・受講してください。

<履修必修科目（履修指導科目）>

学科	第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester	第5 Semester
生命科学科 農学科	入門ゼミ	—	—	基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ
食品栄養学科	入門ゼミ	—	—	—	管理栄養士 基礎演習
食料農業システム学 科	入門ゼミ	—	SDGsと食料農業 システム概論	基礎演習 統計処理実習	—

【3】農学部専攻科目の履修方法

「専攻科目」は、「学部必修科目」、「学科基礎分野」、「学科応用分野」に大別されます。さらに、「学科基礎分野」は「学科基礎科目A」と「学科基礎科目B」、「学科応用分野」は「学科応用科目」と「総合演習・特別研究」に区分されます。

科目区分ごとに、卒業に必要な修得単位数（卒業要件）が定められていますので、それぞれ計画的に履修してください。

【4】農学部専攻科目における「先修制」

農学部専攻科目における「先修制」指定科目は次のとおりです。

先修制を指定している授業科目とその履修の要件となる授業科目を同一学期に履修することはできません。

<学部専攻科目>

食品栄養学科 専攻科目

授業科目	履修の要件となる授業科目及び単位数
給食経営管理実習（校外） 臨地実習Ⅰ（給食経営管理論）	「調理学実習Ⅰ」（1単位）、「調理学実習Ⅱ」（1単位）、「給食経営管理論Ⅰ」（2単位）、 「給食経営管理論Ⅱ」（2単位）、「給食経営管理実習Ⅰ」（1単位）の合計5科目（※）
臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）	上記5科目（※）と「公衆栄養学」（2単位）の合計6科目
臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	上記5科目（※）と「臨床栄養学Ⅰ」（2単位）の合計6科目
特別臨地実習Ⅰ（給食経営管理論） 特別臨地実習Ⅱ（公衆栄養学） 特別臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	「管理栄養士免許証の取得に関する本学の開講科目」〈管理栄養士総合演習、 臨地実習Ⅰ（給食経営管理論）、臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）、臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）を除く〉の合計48科目

【5】進級制度（農学部農学科のみ）

農学部農学科では進級制度があるため、2年次から3年次への進級時に、以下の進級要件（在学期間及び修得単位数）を満たしていなければ進級できません。進級に必要な在学期間及び修得単位数は次のとおりです。

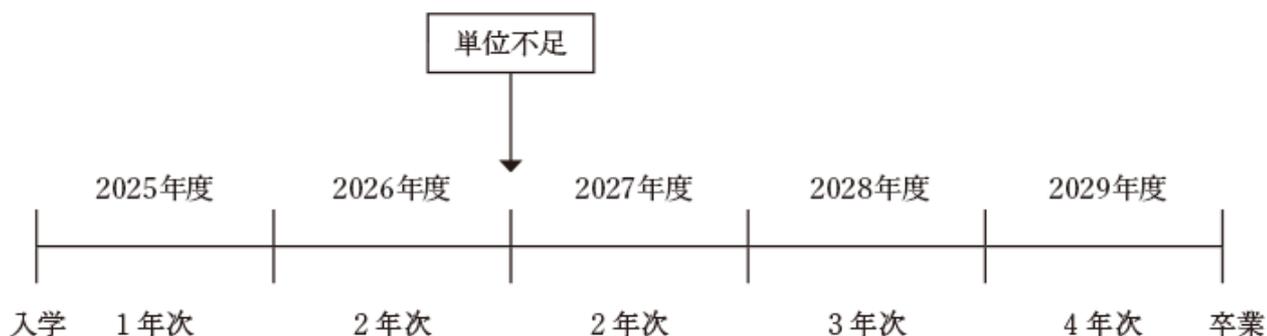
(1) 進級要件

進級年次	在学期間（最低）	修得単位数（卒業要件）
3年次進級	2年間	62単位 ※2年次終了時
<参考>卒業要件	4年間	124単位

(2) 進級に係る年次の取り扱い

2年次から3年次へ進級できなかった場合の「年次」の進行は原年次復帰方式とします。学籍異動上は次のような扱いとなります。

例) 2027年度に3年次へ進級できなかった場合



【6】「食の循環実習」

「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」は、本学農学部コンセプトである「食の循環」（生産・加工・流通・消費・再生）にかかる一連の流れを体験する実習科目であり、4学科が合同で開講します。

学科を超えたグループ（班）を構成し、それぞれのグループで、栽培計画の立案、畑の整備・土づくり、作付け、栽培管理、収穫、収穫後の評価、加工等の実習や6次産業化の現場見学等を行います。

【7】「演習科目」（ゼミナール）

開講科目の中で「もっとも大学らしい授業」が少人数で開講する「演習」（ゼミナール）です。教員の講義により進められる講義科目とは異なり、演習科目は皆さんが中心となって学修を進めていくものです。

農学部では、以下のような演習科目を開講しています。いずれも「必修科目」又は「履修必修科目」に指定されていますので、必ず履修登録・受講してください。

(1) 「入門ゼミ」<第1 Semester>：全学科対象

「入門ゼミ」は、大学入門科目として位置づけており、大学での学修を有意義にするために必要な学び方のノウハウなどの修得を目的としています。レポート作成や電子情報を取得する際のルールや、キャリアパスをどのように捉えておくべきかという心得などの修得をめざします。

(2) 「基礎演習Ⅰ」<第4 Semester>：生命科学科、農学科対象

「基礎演習Ⅰ」は、基礎学力と「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」による実習経験を踏まえたうえで、学部での学びとしてもっとも専門性が高い「総合演習・特別研究」の受講に備える導入科目と位置付けています。自らの興味・関心のあるテーマに近接した内容を専門とする教員

を選択し、研究室に所属するにあたっての基礎的トレーニングを重ねます。関連する複数の書籍の記載事項をまとめるなどして発表・討論し、グループワークやレジュメの作成方法、パワーポイントでの発表方法などの修得をめざします。

(3) 「基礎演習」 <第4 Semester> : 食料農業システム学科対象

「基礎演習」は、基礎学力と「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」による実習経験を踏まえた上で、学部での学びとしてもっとも専門性の高い「総合演習・特別研究」の受講に備える導入科目として位置付けています。第5 Semesterからのゼミナールでの学び（「総合演習・特別研究」）に備え、フィールドワークの手法を学びます。また、グループワークやプレゼンテーションを通して今後の大学生活および将来の目標設定を行うキャリア啓発科目としても位置付けられています。

(4) 「基礎演習Ⅱ」 <第5 Semester> : 生命科学科、農学科対象

「基礎演習Ⅱ」は、学部での学びとしてもっとも専門性が高い「総合演習・特別研究」の受講に備える準備科目として位置付けています。自らの興味・関心のあるテーマに近接した内容を専門とする教員を選択し、研究室に所属するにあたって、学術論文や関連書籍の輪読を行い、最新論文の検索方法や専門用語の理解の仕方、実験方法の理解など、より研究現場に近い学びに関するスキル・知識の修得をめざします。

(5) 「総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」 <第6～8 Semester> : 生命科学科、農学科、食品栄養学科対象

「総合演習」では、各自が自身の興味や関心のあるテーマに近接した専門分野の教員を選択し、専門的な教育や研究指導を受けます。関連する学術論文・実験技術に関する理解、最新の研究動向や学術論文の理解や、新しい実験技術への挑戦など、特別研究と関連しつつ、その専門分野を展開させるためのスキルと知識の修得をめざします。

(6) 「総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」 <第5～8 Semester> : 食料農業システム学科対象

食料農業システム学科では、各自の興味や関心があるテーマにしたがって第5 Semesterよりゼミナールに所属し、「総合演習」を受講します。ゼミナールでは、指導教員から専門的な教育や研究指導を受けます。さまざまな文献や資料を読み、食と農に関わる社会的課題やその研究動向について学びます。また、ゼミナールであるいは個人で調査や見学を行い、現地・現場の実態についても学びます。それら学んだことをゼミナールのメンバーで討論しながら、各自の卒業研究に展開していきます。

【8】「特別研究」

「特別研究」は、卒業研究を実施し、それを取りまとめ発表するまでの一連の過程を、担当教員の指導のもとで実践する科目です。これまでの講義や実験・実習等で修得した知識・技能・体験をもとに、演習での学びを活かし、各自が選択した研究テーマについて、指導教員と連携しつつ研究課題を実施します。

【9】「農学部キャリア実習A・B」

農業の現場で生じている諸問題を理解し、これを解決していくためには、実験室や大学が管理する農地での実験・実習のみではなく、農業の現場に積極的に携わることが重要です。

「農学部キャリア実習A・B」は、「食」や「農」に関わる実際の現場に触れることにより、それらが直面する現実的な課題や、それらを支える人々の心情に気付くことをめざします。また、自身のキャリアについて考える機会を提供することを目的としています。

事前学習で農業の現場や関連業界の現状や課題を知るとともに、実習での目標設定、ビジネスマナー、社会人基礎力の理解と自己分析などを学びます。事後学習では実習の振り返りを行い、報告書を作成します。

「農学部キャリア実習A」は2週間程度の派遣期間です。また、「農学部キャリア実習B」は1週間程度の派遣期間です。

「農学部キャリア実習A・B」の履修方法、実習先の紹介や派遣先の配属等の詳細については、別途、説明会を実施しますので必ず参加してください（開催日時等については、ポータルサイトまたは掲示板でお知らせします）。

【10】「海外農業体験実習A・B」

農業は様々な地域の気候的・土壌的特色や地域に根付いた食や農の伝統とともに発達し、今に至っています。「農」に関する真にグローバルな視点の醸成には、海外の農業事情を体験することが重要です。「海外農業体験実習A」では、海外のなかでも特に東南アジアの農業の中心であるタイの農業関連施設や農業の現場、食品工場の見学など、「海外農業体験実習B」では、ハワイの農園、研究施設を訪問し、食と農業を取り巻く様々なフィールドについて学びます。事前学習でタイおよびハワイの農業の現状や課題を知るとともに、現地実習での目標設定、マナー、社会人基礎力の理解と自己分析などを学びます。事後学習では実習の振り返りを行い、英語による研修発表および報告書作成等を行います。

「海外農業体験実習A・B」の履修方法等の詳細については、別途、説明会を実施しますので必ず参加してください（開催日時等については、ポータルサイトまたは掲示板でお知らせします）。

【11】「農学部特別実習A・B・C」、「農学部特別講義」

農学部では、以下の指定した取り組みを「農学部特別実習A・B・C」、「農学部特別講義」の科目に読み替えることで卒業要件単位として認定しています。

- ・ 「龍谷IP」(Ryukoku Inventive Program) …大学改革及び教育改革・教育改善に資する取組を支援する本学の事業
- ・ 「RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム」…教養教育科目特別講義（キャリア入門）と「キャリア実習・実習指導」を組み合わせ、約100社の企業・団体等と協定を締結して実施する本学独自の教育プログラム
※詳細は「就業体験を伴うプログラム」を参照
- ・ 大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラム
- ・ 他大学が開講する実習等

当該科目の単位数等は以下のとおりです。

授業科目の名称	単位数	配当セメスター
農学部特別実習A	2単位	第1セメスター
農学部特別実習B	2単位	
農学部特別実習C	1単位	
農学部特別講義	2単位	

各授業科目において指定する取り組みは年度ごとに定めます。その他、受講可能年次、履修方法、開講曜講時等の詳細は、原則前年度の3月下旬～当該年度の4月上旬にポータルサイト等においてお知らせします。

【12】基礎教育科目

「基礎教育科目」は、各学科における学修を進めるために必要な最低限の基礎知識を修得することを目的として開講される科目です（開講科目は学科により異なります）。

各自の習熟度を測定するために、入学後に「到達度テスト（プレースメントテスト）」を実施します。このテストの結果において、基礎教育科目を受講するよう指導された場合は、必ず履修・受講してください。なお、基礎教育科目は、いずれも「学科基礎科目B」に配置されていますが、随意科目であり卒業要件には含まれません。

<基礎教育科目>

対象学科	基礎教育科目名	単位数	科目区分	開講セメスター
生命科学科	「生物学基礎」	2単位	随意科目	第1セメスター
農学科	「生物学基礎」			

食品栄養学科	「基礎生物化学」		
食料農業システム学科	「数学基礎」		

【13】生命科学科の専攻科目

(1) 卒業要件単位数 (生命科学科)

卒業のためには、本学科の教育課程における、各科目区分に応じて単位を修得しなければなりません。合計124単位以上の修得が必要です。

科目区分			卒業要件単位数		備考
			必修	選択	
教養教育科目	「仏教の思想」科目		4単位		仏教の思想A・B (各2単位)
	言語科目		6単位	6単位以上	英語総合1 (A)、1 (B) 英語総合2 (A)、2 (B) 英語総合3 英語総合4 (各1単位)
	教養科目	人文科学系科目	2単位		
		社会科学系科目	2単位		
自然科学系科目		2単位			
専攻科目	学部必修科目		8単位		農学概論 (2単位) 食と農の倫理 (2単位) 食の循環実習Ⅰ、Ⅱ (各2単位)
	学科基礎分野	学科基礎科目A		10単位以上	
		学科基礎科目B	8単位	20単位以上	基礎生物学実習、基礎化学実習、植物生理・生化学Ⅰ、遺伝学Ⅰ (各2単位) を含む
	学科応用分野	学科応用科目	4単位	24単位以上	生命科学実習A、B (各2単位) を含む
		総合演習・特別研究	12単位		総合演習Ⅰ～Ⅲ (各2単位) 特別研究 (6単位)
フリーゾーン				16単位以上	
合計			124単位以上		

※「フリーゾーン（16単位以上）」は、学修の自由度、選択度をより高めるために設けており、各自の関心に応じて、「教養教育科目」及び「専攻科目」のいずれを選択しても良い領域です（ただし、随意科目は除く）。

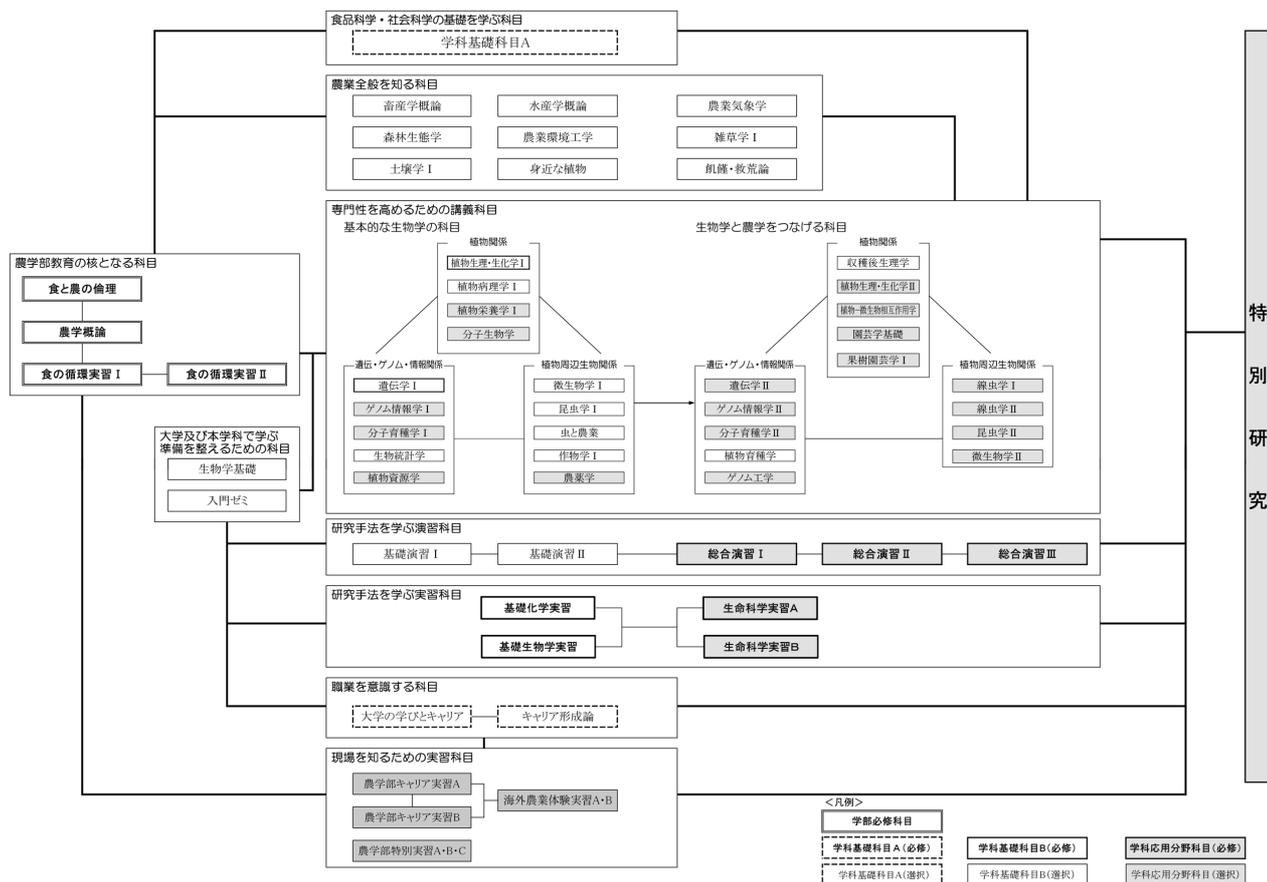
例えば、このフリーゾーンを利用して、教養教育科目の外国語科目に重点をおいて学ぶこともできれば、専攻科目に重点をおいて「食」と「農」について幅広く、深く学ぶことも可能です。

(2) 専攻科目開設科目（生命科学科）

◎必修科目 ●履修必修科目 ○選択科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当セメスター								備考			
			1年次		2年次		3年次		4年次					
			前	後	前	後	前	後	前	後				
専攻科目	必修科目	農学概論	2	◎										
		食と農の倫理	2	◎										
		食の循環実習Ⅰ	2		◎									
		食の循環実習Ⅱ	2			◎								
	学 科 基 礎 分 野	学 科 基 礎 分 野 A	農業を支える植物細胞の力	2	○									
			有機化学	2		○								
			分析化学	2						○				
			社会福祉論	2	○									
			食品の安全と法律	2		○								
			食と嗜好の科学	2		○								
			食の文化論	2			○							
			暮らしの中の食品学	2	○									
			身体のしくみと栄養	2	○									
			調理のサイエンス	2	○									
			日本・京滋の食料と農業	2		○								
			欧米の食料と農業	2			○							
			アジア・アフリカの食料と農業	2			○							
			日本の歴史と農業	2		○								
			世界の歴史と農業	2		○								
			科学史・農学史入門	2			○							
			くらしと経済	2	○									
			会社と農家のしくみ	2	○									
			事例に学ぶ食品マーケティング	2	○									
			大学の学びとキャリア	2	○									
			キャリア形成論	2				○						
			情報教育論	2						○				随意科目
			地学概論	2			○							
			物理学概論	2							○			
			化学概論	2			○							
			生物物理学	2							○			
地学実験			2							○				
物理学実験	1							○						
生物物理学実習	1							○						
専攻科目	学 科 基 礎 分 野 B	入門ゼミ	2	●										
		基礎演習Ⅰ	2			●								
		基礎演習Ⅱ	2				●							
		生物学基礎	2	○								随意科目		
		遺伝学Ⅰ	2			◎								
		植物育種学	2		○									
		植物生理・生化学Ⅰ	2		◎									
		作物学Ⅰ	2		○									
		収穫後生理学	2			○								
		植物病理学Ⅰ	2			○								

(3) カリキュラムフローチャート (生命科学科)



[14] 農学科の専攻科目

(1) 卒業要件単位数 (農学科)

卒業のためには、本学科の教育課程における、各科目区分に応じて単位を修得しなければなりません。合計124単位以上の修得が必要です。

科目区分		卒業要件単位数		備考	
		必修	選択		
教養教育科目	「仏教の思想」科目	4単位		仏教の思想A・B (各2単位)	
	言語科目	6単位	6単位以上	英語総合1 (A)、1 (B) 英語総合2 (A)、2 (B) 英語総合3 英語総合4 (各1単位)	
	教養科目	人文科学系科目		2単位	
		社会科学系科目		2単位	
自然科学系科目		2単位			
専攻科目	学部必修科目	8単位		農学概論 (2単位) 食と農の倫理 (2単位)	

				位) 食の循環実習Ⅰ、Ⅱ (各2単位)
学科基礎分野	学科基礎科目A		10単位以上	
	学科基礎科目B	8単位	20単位以上	基礎生物学実習、基礎化学実習、作物学Ⅰ、植物育種学(各2単位)を含む
学科応用分野	学科応用科目	4単位	24単位以上	農場実習、農学専門実験(各2単位)を含む
	総合演習・特別研究	12単位		総合演習Ⅰ～Ⅲ(各2単位)、特別研究(6単位)
フリーゾーン			16単位以上	
合計		124単位以上		

※「フリーゾーン(16単位以上)」は、学修の自由度、選択度をより高めるために設けており、各自の関心に応じて、「教養教育科目」及び「専攻科目」のいずれを選択しても良い領域です(ただし、随意科目は除く)。

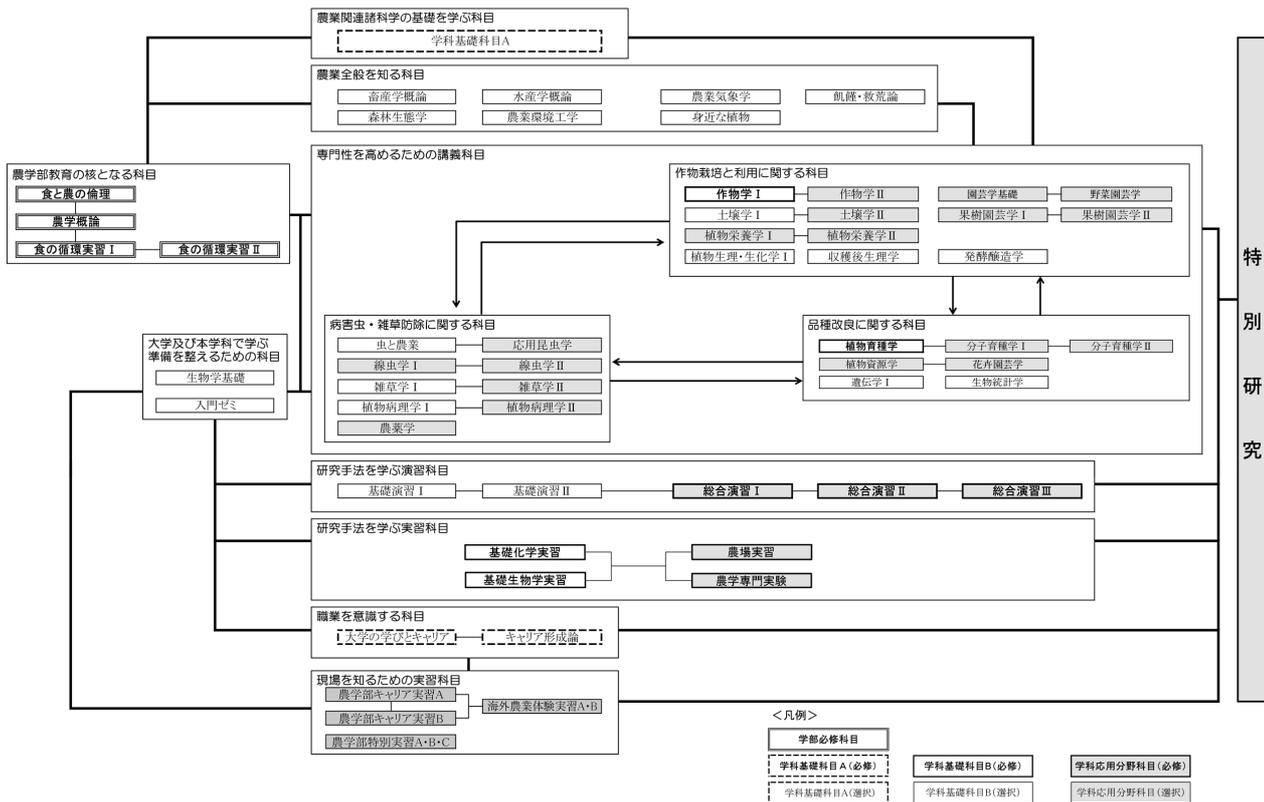
例えば、このフリーゾーンを利用して、教養教育科目の外国語科目に重点をおいて学ぶこともできれば、専攻科目に重点をおいて「食」と「農」について幅広く、深く学ぶことも可能です。

(2) 専攻科目開設科目(農学科)

◎必修科目 ●履修必修科目 ○選択科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当セメスター								備考				
			1年次		2年次		3年次		4年次						
			前	後	前	後	前	後	前	後					
専攻科目	学部 必修科目	農学概論	2	○											
		食と農の倫理	2	○											
		食の循環実習Ⅰ	2		○										
		食の循環実習Ⅱ	2			○									
	専攻科目	学科基礎分野	学科基礎科目A	農業を支える植物細胞の力	2	○									
				有機化学	2		○								
				分析化学	2					○					
				社会福祉論	2	○									
				食品の安全と法律	2		○								
				食と嗜好の科学	2		○								
				食の文化論	2			○							
				暮らしの中の食品学	2	○									
				身体のしくみと栄養	2	○									
				調理のサイエンス	2	○									
				日本・京滋の食料と農業	2		○								
				欧米の食料と農業	2			○							
				アジア・アフリカの食料と農業	2			○							
				日本の歴史と農業	2		○								
				世界の歴史と農業	2		○								
				科学史・農学史入門	2			○							
				くらしと経済	2	○									
				会社と農家のしくみ	2	○									
				事例に学ぶ食品マーケティング	2	○									
				大学の学びとキャリア	2	○									
				キャリア形成論	2				○						
				情報教育論	2					○					随意科目
				地学概論	2			○							
				物理学概論	2						○				
				化学概論	2			○							
				生物物理学	2						○				
				地学実験	2						○				
				物理学実験	1						○				
				生物物理学実習	1						○				
専攻科目	学科基礎分野	学科基礎科目B	入門ゼミ	2	●										
			基礎演習Ⅰ	2			●								
			基礎演習Ⅱ	2				●							
			生物学基礎	2	○								随意科目		
			遺伝学Ⅰ	2			○								
			植物育種学	2		○									
			植物生理・生化学Ⅰ	2		○									

(3) カリキュラムフローチャート（農学科）



【15】食品栄養学科の専攻科目

(1) 卒業要件単位数（食品栄養学科）

卒業のためには、本学科の教育課程における、各科目区分に応じて単位を修得しなければなりません。合計124単位以上の修得が必要です。

科目区分	卒業要件単位数		備考	
	必修	選択		
教養教育科目	「仏教の思想」科目	4単位	仏教の思想A・B（各2単位）	
	言語科目	6単位	英語総合1（A）、1（B） 英語総合2（A）、2（B） 英語総合3 英語総合4（各1単位）	
	教養科目	人文科学系科目	2単位	
		社会科学系科目	2単位	
自然科学系科目		2単位		
専攻科目	学部必修科目	8単位	農学概論（2単位） 食と農の倫理（2単位）	

					食の循環実習Ⅰ、Ⅱ (各2単位)
学科基礎分野	学科基礎科目A			6単位以上	
	学科基礎科目B	14単位		18単位以上	栄養士課程資格要件を満たす科目(14単位必修)を含む
学科応用分野	学科応用科目	12単位		16単位以上	栄養士課程資格要件を満たす科目(12単位必修)を含む
	総合演習・特別研究	12単位			総合演習Ⅰ～Ⅲ(各2単位) 特別研究(6単位)
フリーゾーン				16単位以上	
合計		124単位以上			

- ※ 「フリーゾーン(16単位以上)」は、学修の自由度、選択度をより高めるために設けており、各自の関心に応じて、「教養教育科目」及び「専攻科目」のいずれを選択しても良い領域です(ただし、随意科目は除く)。
例えば、このフリーゾーンを利用して、教養教育科目の外国語科目に重点をおいて学ぶこともできれば、専攻科目に重点をおいて「食」と「農」について幅広く、深く学ぶことも可能です。
- ※ 「栄養士免許証」を取得するためには、所定の単位を取得する必要があります。詳細については、「栄養士資格について」を参照してください。
- ※ 「管理栄養士国家試験受験資格」を取得するためには、卒業要件以上の単位を取得する必要があります。
詳細については、「管理栄養士国家試験受験資格について」を参照してください。
- ※ 「食品衛生管理者及び食品衛生監視員」の資格を取得するためには、所定の単位を取得しなければなりません。詳細については、「食品衛生管理者および食品衛生監視員養成課程」を参照してください。

(2) 専攻科目開設科目(食品栄養学科)

◎必修科目 ●履修必修科目 ○選択科目 ◇課程必修科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当セメスター								栄養士	管理栄養士	食品衛生管理者	備考
			1年次		2年次		3年次		4年次					
			前	後	前	後	前	後	前	後				
専攻科目 学科基礎分野 学科基礎科目A	キャリア形成論	2				○								
	情報教育論	2					○							随意科目
	地学概論	2			○									
	物理学概論	2						○						
	化学概論	2			○									
	生物物理学	2						○						
	生物物理学実習	1						○						
専攻科目 学科基礎分野 学科基礎科目B	入門ゼミ	2	●											
	管理栄養士基礎演習	2					●							
	科学英語	2							○					
	健康管理概論	2		◎						◇	◇	◇		
	公衆衛生学Ⅰ	2			◎					◇	◇	◇		
	公衆衛生学Ⅱ	2				○					◇	◇		
	生化学	2	◎							◇	◇	◇		
	分子栄養学	2		○							◇	◇		
	解剖生理学	2		◎						◇	◇	◇		
	運動生理学	2					◎			◇	◇			
	臨床医学概論	2			○						◇	◇		
	臨床病態学	2				○					◇	◇		
	微生物学	2			○					◇	◇	◇		
	食品化学	2		◎						◇	◇	◇		
	食品学	2			◎					◇	◇	◇		
	食品機能・加工論	2						○				◇		
	食品衛生学	2				○				◇	◇	◇		
	調理学	2	○							◇	◇			
	有機化学	2		○								◇		
	分析化学	2						○				◇		
	基礎生物化学	2	○											随意科目
	生化学実験	1				○					◇	◇		
	解剖生理学実験	1			○						◇	◇		
	栄養生理学実験	1				○						◇		
	微生物学実験	1			○							◇		
	食品学実験Ⅰ	1			○						◇	◇		
	食品学実験Ⅱ	1			○						◇	◇		
食品加工学実習	1							○			◇			
食品衛生学実験	1				○					◇	◇			
調理学実習Ⅰ	1	○								◇	◇			
調理学実習Ⅱ	1		○							◇	◇			

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当セメスター								栄養士	管理栄養士	食品衛生管理者	備考
			1年次		2年次		3年次		4年次					
			前	後	前	後	前	後	前	後				
	基礎栄養学	2			○						◇	◇	◇	
	応用栄養学	2				○					◇	◇	◇	
	ライフステージ栄養学	2						○			◇	◇		
	栄養評価論	2							○			◇		
	スポーツ栄養学	2							○					
	栄養教育論Ⅰ	2				○					◇	◇		
	栄養教育論Ⅱ	2						○			◇	◇		
	栄養カウンセリング論	2							○			◇		
	学校栄養指導論	2							○					
	学校栄養実践論	2							○					
	臨床栄養学Ⅰ	2				○					◇	◇		
	臨床栄養学Ⅱ	2						○				◇		
	臨床栄養学Ⅲ	2							○			◇		
	臨床栄養管理学	2							○			◇		
	臨床栄養実践論	2								○				
	公衆栄養学	2						○			◇	◇	◇	
	公衆栄養活動論	2							○			◇		
	栄養疫学	2				○							◇	
	給食経営管理論Ⅰ	2				○					◇	◇	◇	
	給食経営管理論Ⅱ	2					○					◇		
	管理栄養士総合演習	2								○		◇		
	臨地実習指導	1								○				
	基礎栄養学実習	1					○				◇	◇		
	応用栄養学実習	1						○			◇	◇		
	栄養教育論実習	1							○		◇	◇		
	臨床栄養学実習Ⅰ	1							○		◇	◇		
	臨床栄養学実習Ⅱ	1								○		◇		
	公衆栄養学実習	1								○	◇	◇		
	給食経営管理実習Ⅰ	1					○				◇	◇		
	給食経営管理実習Ⅱ	1						○				◇		
	給食経営管理実習(校外)	1								○	◇	◇		
	臨地実習Ⅰ(給食経営管理論)	1								○		※	いずれか 1科目を選択	
	臨地実習Ⅱ(公衆栄養学)	1								○		※		
	臨地実習Ⅲ(臨床栄養学)	2								○		◇		
	特別臨地実習Ⅰ(給食経営管理論)	1									○			
	特別臨地実習Ⅱ(公衆栄養学)	1									○			
	特別臨地実習Ⅲ(臨床栄養学)	1									○			
	農学部キャリア実習A	2					○							
	農学部キャリア実習B	1					○							
	海外農業体験実習A	2					○							
	海外農業体験実習B	2					○							
	農学部特別実習A	2	○											
	農学部特別実習B	2	○											
	農学部特別実習C	1	○											
	農学部特別講義	2	○											
	総合演習Ⅰ	2							○					
	総合演習Ⅱ	2								○				
	総合演習Ⅲ	2									○			
	特別研究	6									○			

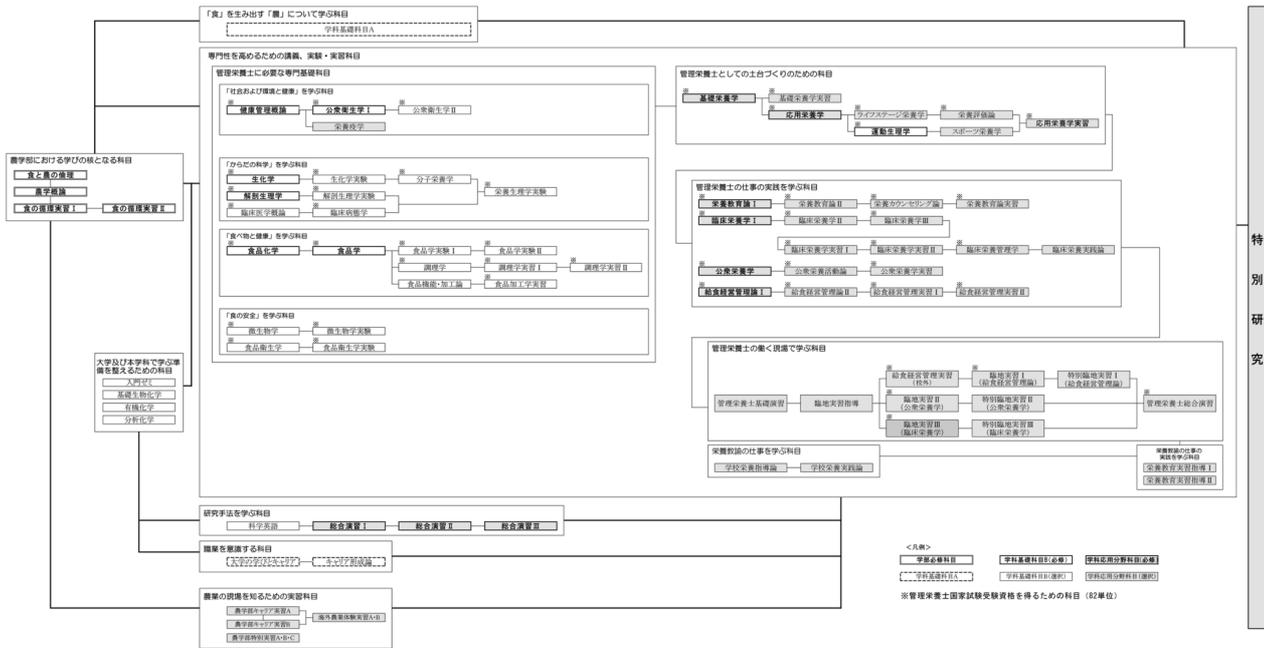
専攻科目

学科学用分野

学科学用科目

総合演習
特別研究

(3) カリキュラムフローチャート（食品栄養学科）



(4) 栄養士および管理栄養士養成課程－食品栄養学科のみ－

農学部食品栄養学科では、「農」の仕組みを理解しながら「食」と「ヒトの栄養」について学び、食と栄養のスペシャリストとして活躍できる人材の輩出をめざしています。このため本学科は、栄養士および管理栄養士養成施設であり、卒業後は、病院、保健所、福祉施設、民間企業給食施設、スポーツジム、食品関連企業等、多岐にわたる職場での活躍が期待されます。

本学科では、卒業時に栄養士免許の取得が可能であり、さらに幅広い知識と技能を修得することで、管理栄養士国家試験の受験資格を取得できるカリキュラムを用意しています。

1) 栄養士資格について

① 栄養士とは

栄養士とは、都道府県知事の免許を受けて、栄養士の名称を用いて栄養の指導に従事することを業とする者をいいます。

② 栄養士資格の取得

栄養士の資格を取得するには、農学部食品栄養学科において、卒業要件を満たす科目及び厚生労働大臣の指定する科目の単位を修得しなければなりません。

栄養士の免許は、栄養士に必要な知識・技術を修得した者に対して、都道府県知事が与えます。

③ 栄養士免許証の取得に関する本学の開講科目

栄養士法に定める教育内容			本学開講科目		
教育内容	単位数		授業科目	単位数	
	講義又は演習	実験又は実習		講義又は演習	実験又は実習
社会生活と健康	4	4	健康管理概論	2	
人体の構造と機能	8		公衆衛生学Ⅰ	2	
			生化学	2	
			解剖生理学	2	
			運動生理学	2	
			微生物学	2	
			生化学実験		1
食品と衛生	6		解剖生理学実験		1
			食品化学	2	
			食品学	2	
			食品衛生学	2	
			食品学実験Ⅰ		1
食品学実験Ⅱ			1		
小計	18		4	小計	18
栄養と健康	8	10	基礎栄養学	2	
			応用栄養学	2	
			ライフステージ栄養学	2	
			臨床栄養学Ⅰ	2	
			基礎栄養学実習		1
			応用栄養学実習		1
栄養の指導	6		臨床栄養学実習Ⅰ		1
			栄養教育論Ⅰ	2	
			栄養教育論Ⅱ	2	
			公衆栄養学	2	
給食の運営	4		栄養教育論実習		1
			公衆栄養学実習		1
			給食経営管理論Ⅰ	2	
			調理学	2	
		給食経営管理実習Ⅰ		1	
		給食経営管理実習(校外)		1	
		調理学実習Ⅰ		1	
調理学実習Ⅱ		1			
食品衛生学実験		1			
小計	18	10	小計	18	10
合計	36	14	合計	36	14

※栄養士養成課程における実験・実習科目については、45時間をもって1単位とします。

2) 管理栄養士国家試験受験資格について

① 管理栄養士とは

管理栄養士とは、厚生労働大臣の免許を受けて、管理栄養士の名称を用いて、傷病者に対する療養のため必要な栄養の指導、個人の身体の状態、栄養状態等に応じた高度の専門的知識および技術を要する健康の保持増進のための栄養の指導並びに特定多数人に対して継続的に食事を供給する施設における利用者の身体の状態、栄養状態、利用の状況等に応じた特別の配慮を必要とする給食管理及びこれらの施設に対する栄養改善上必要な指導等を行うことを業とする者をいいます。

② 管理栄養士資格の取得

管理栄養士の資格を取得するには、農学部食品栄養学科において、卒業要件を満たす科目及び厚生労働大臣の指定する科目の単位を修得し、その後、管理栄養士国家試験に合格しなければなりません。

管理栄養士の免許は、管理栄養士国家試験に合格した者に対して、厚生労働大臣が与えます。

③ 管理栄養士免許証の取得に関する本学の開講科目

管理栄養士学校指定規則に定める教育内容			本学開講科目			
教育内容	単位数		授業科目	単位数		
	講義又は演習	実験又は実習		講義又は演習	実験又は実習	
専門基礎分野	社会・環境と健康	6	10	健康管理概論	2	
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14		公衆衛生学Ⅰ	2	
				公衆衛生学Ⅱ	2	
				生化学	2	
				分子栄養学	2	
				解剖生理学	2	
				運動生理学	2	
				臨床医学概論	2	
				臨床病態学	2	
				微生物学	2	
				生化学実験		1
				解剖生理学実験		1
				栄養生理学実験		1
				微生物学実験		1
				食べ物と健康	8	食品化学
	食品学	2				
	食品衛生学	2				
	調理学	2				
	食品学実験Ⅰ					1
	食品学実験Ⅱ					1
食品加工学実習		1				
調理学実習Ⅰ		1				
調理学実習Ⅱ		1				
食品衛生学実験		1				
小計	28	10	小計	28	10	

管理栄養士学校指定規則に定める教育内容			本学開講科目				
教育内容	単位数		授業科目	単位数			
	講義 又は演習	実験 又は実習		講義 又は演習	実験 又は実習		
専門分野	基礎栄養学	2	8	基礎栄養学	2		
				基礎栄養学実習		1	
	応用栄養学	6			応用栄養学	2	
					ライフステージ栄養学	2	
					栄養評価論	2	
					応用栄養学実習		1
					栄養教育論Ⅰ	2	
	栄養教育論	6			栄養教育論Ⅱ	2	
					栄養カウンセリング論	2	
					栄養教育論実習		1
					臨床栄養学Ⅰ	2	
	臨床栄養学	8			臨床栄養学Ⅱ	2	
					臨床栄養学Ⅲ	2	
					臨床栄養管理学	2	
					臨床栄養学実習Ⅰ		1
					臨床栄養学実習Ⅱ		1
					公衆栄養学	2	
	公衆栄養学	4			公衆栄養活動論	2	
					公衆栄養学実習		1
					給食経営管理論Ⅰ	2	
給食経営管理論	4		給食経営管理論Ⅱ	2			
			給食経営管理実習Ⅰ		1		
			給食経営管理実習Ⅱ		1		
			給食経営管理実習Ⅲ(臨床栄養学)		2		
総合演習	2		管理栄養士総合演習	2			
臨地実習	4		給食経営管理実習(校外)※1		1		
			臨地実習Ⅰ(給食経営管理論)※2		1		
			臨地実習Ⅱ(公衆栄養学)※2		1		
			臨地実習Ⅲ(臨床栄養学)		2		
小計	32	12	小計	32	12		
合計	60	22	合計	60	22		

※ 1「給食の運営」にかかる校外実習(1単位)を含む。

※ 2「臨地実習Ⅰ(給食経営管理論)」および「臨地実習Ⅱ(公衆栄養学)」は選択必修科目であり、いずれか1科目(1単位)を選択すること。

※ 3管理栄養士養成課程における実験・実習科目については、45時間をもって1単位とします。

(5) 食品衛生管理者および食品衛生監視員養成課程－食品栄養学科のみ－

農学部食品栄養学科では、食品の安全と機能を深く理解し、幅広い分野で活躍できる能力を持った食品に関する専門家を養成するべく、「食品衛生管理者および食品衛生監視員養成課程」を設置しています。

食品衛生管理者および食品衛生監視員は厚生労働省に認定される資格であり、食品衛生法に定められている所定の科目の単位を修得しなければなりません。食品衛生管理者は食品製造・加工会社などで必要となる資格で、食品衛生監視員は検疫所や保健所に勤務した時に用いられる任用資格です。

① 食品衛生管理者及び食品衛生監視員とは

食品衛生管理者は、食品衛生法の規定により、製造又は加工の過程において特に衛生上の考慮を必要とする食品又は添加物であって、食品衛生法施行令で定めるものの製造又は加工を行う営業者は、その製造又は加工を衛生的に管理させるため、その施設ごとに、専任の食品衛生管理者を置かなければならないこととなっています。

また、食品衛生監視員は、食品衛生法の規定により、当該職員の職権及び食品衛生に関する指導の職務を行わせるために、厚生労働大臣、内閣総理大臣又は都道府県知事等が命じる技術系公務員です。

② 食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得

食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を取得するためには、農学部食品栄養学科において、厚生労働大臣の登録を受けた、所定の科目の単位を修得しなければなりません。

③ 食品衛生管理者及び食品衛生監視員資格の取得に関する本学の開講科目

	食品衛生法施行規則第50条 別表に定める科目	食品栄養学科の開講科目		
		左記科目に該当する科目名	必修・選択の別	単位数
別表第14条に掲げる科目	化 学	分析化学	選択	2
		有機化学	選択	2
	生 物 化 学	生化学	必修	2
		食品化学	必修	2
		解剖生理学	必修	2
	微 生 物 学	微生物学	選択	2
		食品衛生学	選択	2
	公 衆 衛 生 学	公衆衛生学Ⅰ	必修	2
		公衆衛生学Ⅱ	選択	2
		健康管理概論	必修	2
栄養疫学		選択	2	
	小計 22単位以上	—	—	22単位
別表第15条に掲げる科目	その他関連科目	食品学	必修	2
		食品機能・加工論	選択	2
		基礎栄養学	必修	2
		応用栄養学	必修	2
		分子栄養学	選択	2
		臨床病態学	選択	2
		臨床医学概論	選択	2
		公衆栄養学	必修	2
		給食経営管理論Ⅰ	必修	2
			小 計	—
	合計 40単位以上	—	—	40単位

【16】 食料農業システム学科の専攻科目

(1) 卒業要件単位数（食料農業システム学科）

卒業のためには、本学科の教育課程における、各科目区分に応じて単位を修得しなければなりません。合計124単位以上の修得が必要です。

科目区分		卒業要件単位数		備考	
		必修	選択		
教養教育科目	「仏教の思想」科目		4単位		仏教の思想A・B（各2単位）
	言語科目		6単位	6単位以上	英語総合1（A）、1（B） 英語総合2（A）、2（B） 英語総合3 英語総合4（各1単位）
	教養科目	人文科学系科目	2単位		
		社会科学系科目	2単位		
自然科学系科目		2単位			
専攻科目	学部必修科目		8単位		農学概論（2単位） 食と農の倫理（2単位） 食の循環実習Ⅰ、Ⅱ（各2単位）
	学科基礎分野	学科基礎科目A		10単位以上	
		学科基礎科目B	4単位		22単位以上
	学科応用分野	学科応用科目			28単位以上
総合演習・特別研究		14単位			総合演習Ⅰ～Ⅳ（各2単位） 特別研究（6単位）
フリーゾーン				16単位以上	
合計			124単位以上		

※「フリーゾーン（16単位以上）」は、学修の自由度、選択度をより高めるために設けており、各自の関心に応じて、「教養教育科目」及び「専攻科目」のいずれを選択しても良い領域です（ただし、随意科目は除く）。

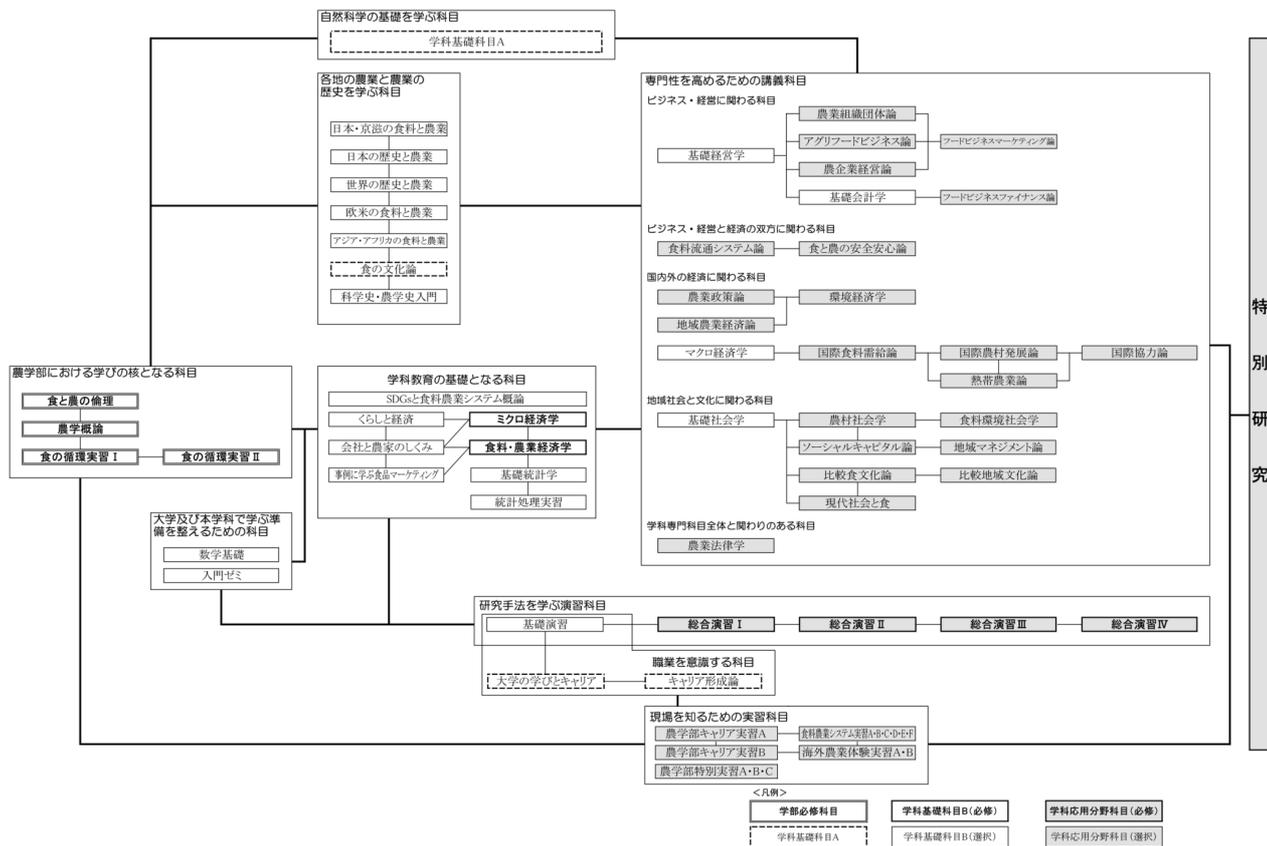
例えば、このフリーゾーンを利用して、教養教育科目の外国語科目に重点をおいて学ぶこともできれば、専攻科目に重点をおいて「食」と「農」について幅広く、深く学ぶことも可能です。

(2) 専攻科目開設科目（食料農業システム学科）

◎必修科目 ●履修必修科目 ○選択科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当セメスター								備考				
			1年次		2年次		3年次		4年次						
			前	後	前	後	前	後	前	後					
専攻科目	必修科目	農学概論	2	○											
		食と農の倫理	2	○											
		食の循環実習Ⅰ	2		○										
		食の循環実習Ⅱ	2			○									
	専攻科目 基礎分野	学 科 基 礎 科 目 A	収穫後生理学	2			○								
			植物病理学Ⅰ	2			○								
			身近な植物	2		○									
			森林生態学	2		○									
			雑草学Ⅰ	2				○							
			飢饉・救荒論	2	○										
			昆虫学Ⅰ	2			○								
			虫と農業	2		○									
			土壌学Ⅰ	2				○							
			微生物学Ⅰ	2			○								
			農業気象学	2						○					
			畜産学概論	2				○							
			水産学概論	2						○					
			農業環境工学	2		○									
			農業を支える植物細胞の力	2	○										
			分子から見た生命	2	○										
			遺伝の考え方	2	○										
			園芸作物の科学	2		○									
			植物栽培の考え方	2	○										
			生活を支える微生物の力	2	○										
			社会福祉論	2	○										
			食品の安全と法律	2		○									
			食と嗜好の科学	2		○									
			食の文化論	2			○								
			暮らしの中の食品学	2	○										
			身体のしくみと栄養	2	○										
			調理のサイエンス	2	○										
			大学の学びとキャリア	2	○										
キャリア形成論	2				○										
情報教育論	2						○					随意科目			
専攻科目	学 科 基 礎 科 目 B	入門ゼミ	2	●											
		SDGsと食料農業システム概論	2			●									
		基礎演習	2				●								
		暮らしと経済	2	○											
		会社と農家のしくみ	2	○											
		事例に学ぶ食品マーケティング	2	○											
		ミクロ経済学	2		○										
		マクロ経済学	2			○									
		数学基礎	2	○									随意科目		
		統計処理実習	2				●								
		基礎統計学	2				○								

(3) カリキュラムフローチャート（食料農業システム学科）



(4) 食料農業システム学科における学修プログラム

■「食料農業システムSDGsプログラム」(食農×SDGs)

① プログラムのねらい

食料農業システム学科の学びの幅広さを生かして、SDGs（持続可能な開発目標）の17の目標と関連付けながら（※1）持続可能な食料農業システムのありかたについて学びます。座学の授業科目だけでなく、実習科目を受講することで、SDGsと食料・農業・環境のつながりについて体験しながら学ぶことをねらいとします。

② プログラムの修了要件

以下のプログラム必修科目、プログラム選択科目及びプログラム実習科目において、所定の要件（単位修得、点数など）を満たした者に「食料農業システムSDGsプログラム修了証」を発行します。

【プログラム必修科目】

授業科目	単位数	配当セメスター
SDGsと食料農業システム概論	2	3
環境経済学	2	5
国際農村発展論	2	6

【プログラム選択科目】

以下の科目から4科目（8単位）以上かつ各科目70点以上の点数で単位修得すること。ただし、それらの科目が「SDGsの17の目標」のうち6つ以上の目標と関連していること（※1）。

授業科目	単位数	配当セメスター
農業組織団体論	2	3

農業政策論	2	4
フードビジネスマーケティング論	2	4
比較食文化論	2	4
食料流通システム論	2	4
ソーシャルキャピタル論	2	4
アグリフードビジネス論	2	4
比較地域文化論	2	5
農企業経営論	2	5
食と農の安全安心論	2	5
地域マネジメント論	2	5
国際食料需給論	2	5
現代社会と食	2	6
食料環境社会学	2	6
フードビジネスファイナンス論	2	6
地域農業経済論	2	6
国際協力論	2	6
熱帯農業論	2	6

【プログラム実習科目】

以下の科目から食料農業システムSDGsプログラムに対応する取り組み（※2）1科目（2単位）以上かつ70点以上の点数で単位修得すること。

授業科目	単位数	配当Semester
食料農業システム実習A	2	3
食料農業システム実習B	2	3
食料農業システム実習C	2	3
食料農業システム実習D	2	3
食料農業システム実習E	2	3
食料農業システム実習F	2	3

③ 「食料農業システムSDGsプログラム修了証」の申請方法と受領までの流れ

- 1) 各自「学業成績表」にて単位の修得状況、点数を確認
- 2) 所定の要件をすべて満たしていることを確認後、「食料農業システムSDGsプログラム申請書」に必要事項を記入して申請（※3）
- 3) 「食料農業システムSDGsプログラム修了証」を受領

■ 「地域農業マネジメントプログラム」

① プログラムのねらい

JA（農業協同組合）をはじめとする農業組織・団体等に就職して活躍する人材を育成することを目的に、地域農業マネジメントの理論と実態について学びます。関連する授業科目の受講を通して、現場の課題や地域農業を支える各主体の業務内容について体験しながら学ぶ

ことをねらいとします。

② プログラムの修了要件

以下のプログラム必修科目、プログラム選択科目及びプログラム実習科目における所定の要件（単位修得、点数）を満たした者に「地域農業マネジメントプログラム修了証」を発行します。

【プログラム必修科目】

授業科目	単位数	配当セメスター
農業組織団体論	2	3

【プログラム選択科目】

以下の科目から3科目（6単位）以上かつ各科目70点以上の点数で単位修得すること

授業科目	単位数	配当セメスター
農業政策論	2	4
食料流通システム論	2	4
アグリフードビジネス論	2	4
農企業経営論	2	5
地域マネジメント論	2	5
地域農業経済論	2	6

【プログラム実習科目】

以下の科目から地域農業マネジメントプログラムに対応する取り組み（※2）2科目（4単位）以上かつ各科目70点以上の点数で単位修得すること。

授業科目	単位数	配当セメスター
食料農業システム実習A	2	3
食料農業システム実習B	2	3
食料農業システム実習C	2	3
食料農業システム実習D	2	3
食料農業システム実習E	2	3
食料農業システム実習F	2	3

③ 「地域農業マネジメントプログラム修了証」の申請方法と受領までの流れ

- 1) 各自「学業成績表」にて単位の修得状況、点数を確認
- 2) 所定の要件をすべて満たしていることを確認後、「地域農業マネジメントプログラム申請書」に必要事項を記入して申請（※3）
- 3) 「地域農業マネジメントプログラム修了証」を受領

※1 「SDGs（持続可能な開発目標）の17の目標」と選択科目（各科目）の内容との関連性を示す対応表は別に定めます。

※2 「食料農業システム実習A～F」の「食料農業プログラム」「地域農業マネジメントプログラム」に対応する取り組みは年度ごとに定めます。

※3 「食料農業システムSDGsプログラム」「地域農業マネジメントプログラム」の申請方法等の詳細は、3月および9月の成績発表時にポータルサイト等においてお知らせします。所定の要件を満たすことができれば両プログラムを申請することも可能です。

★「食料農業システムSDGsプログラム」「地域農業マネジメントプログラム」の詳細は、以下のWEBサイトにて確認してください。

(URL) https://www.agr.ryukoku.ac.jp/department/afs_program.html



【17】科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。詳細は、以下のWEBサイトにて確認してください。

(URL) <https://www.agr.ryukoku.ac.jp/numbering>

